

第9回厚生労働省ICFシンポジウム 2021.2.20

基調講演

# ICFの可能性と活用法

Possibilities and utilization of the ICF

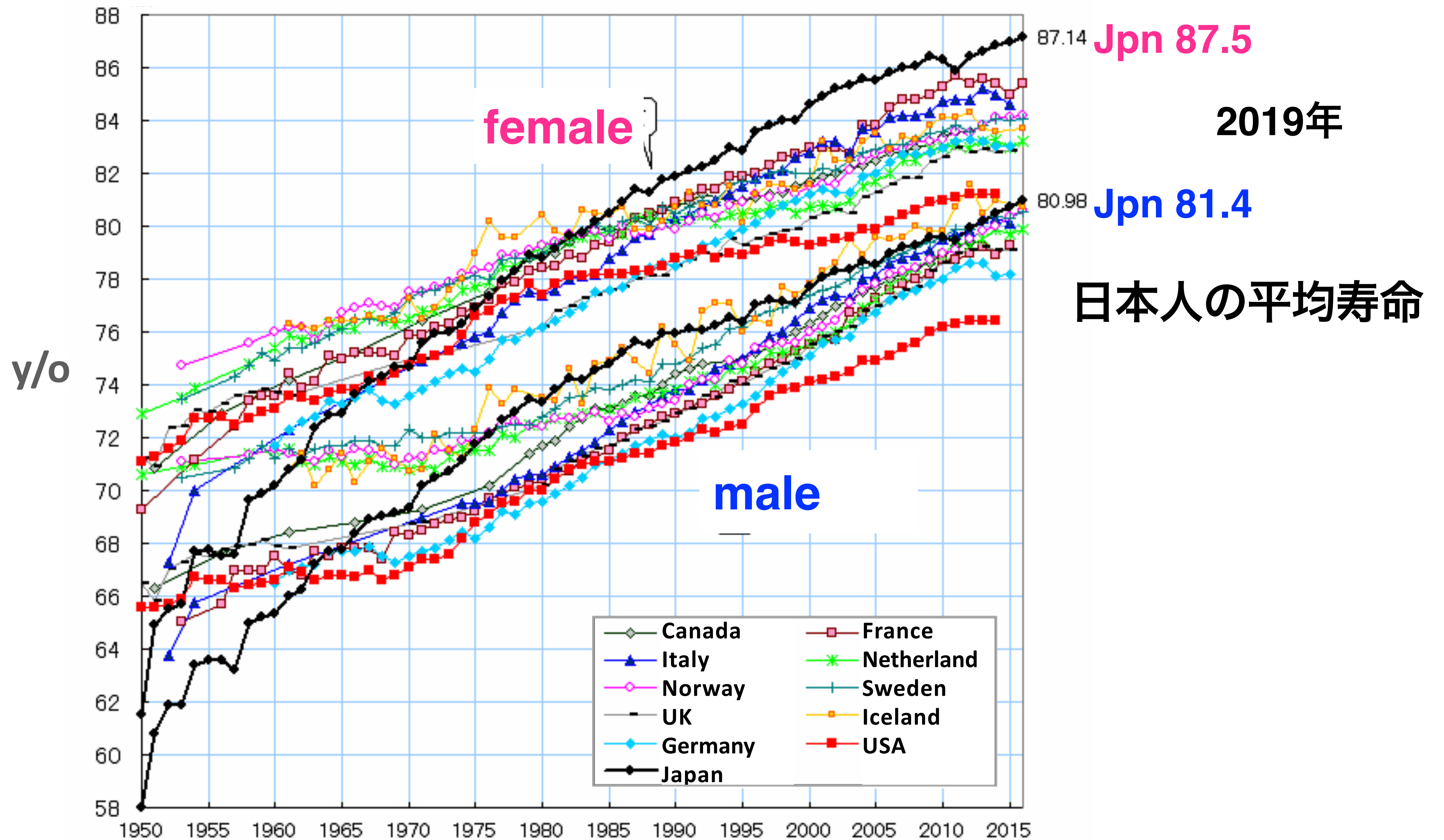
藤田医科大学学長

才藤 栄一

Eiichi Saitoh MD, DMSc

President, Fujita Health University

# 生存を超えて生活と向き合う時代

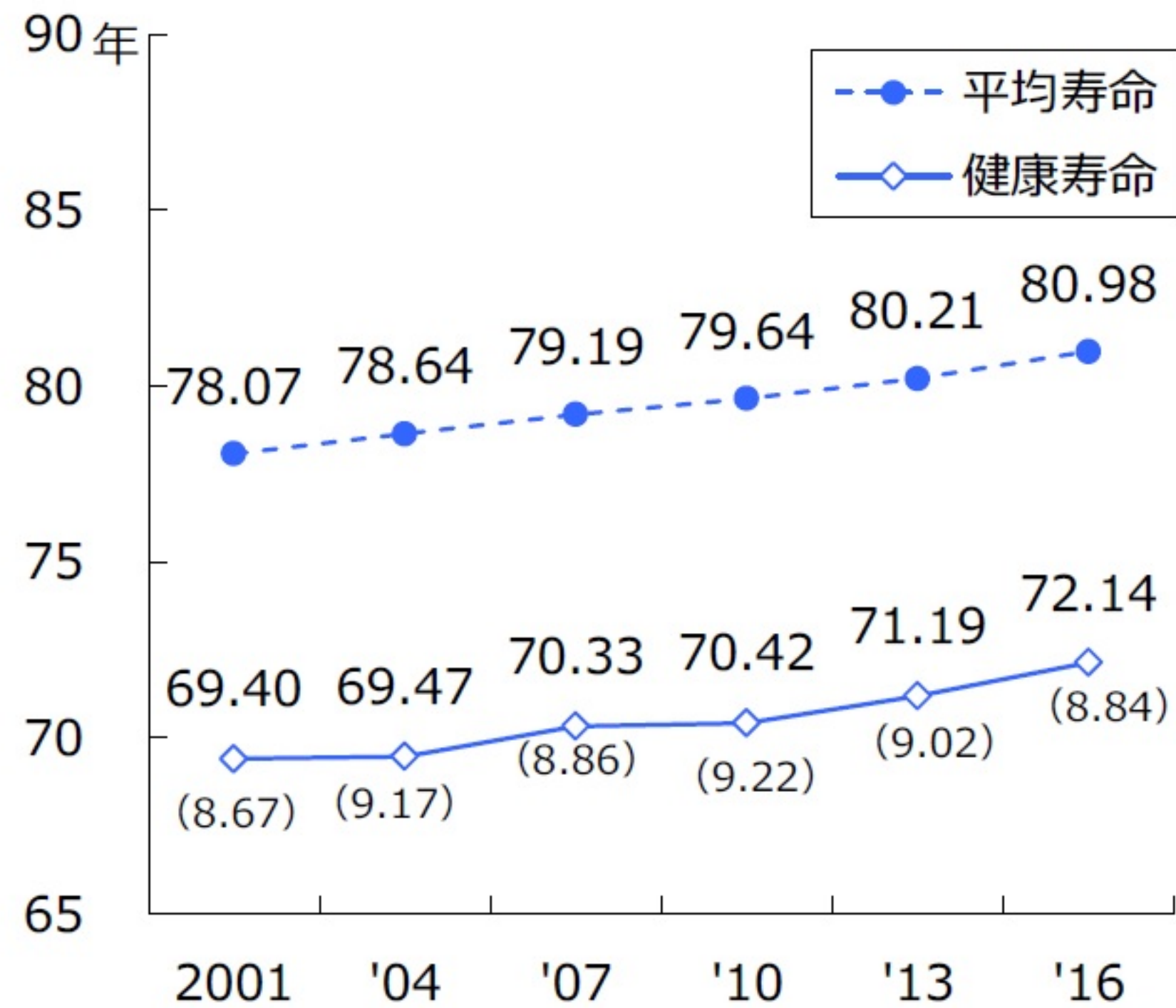


# 生存を超えて生活と向き合う時代

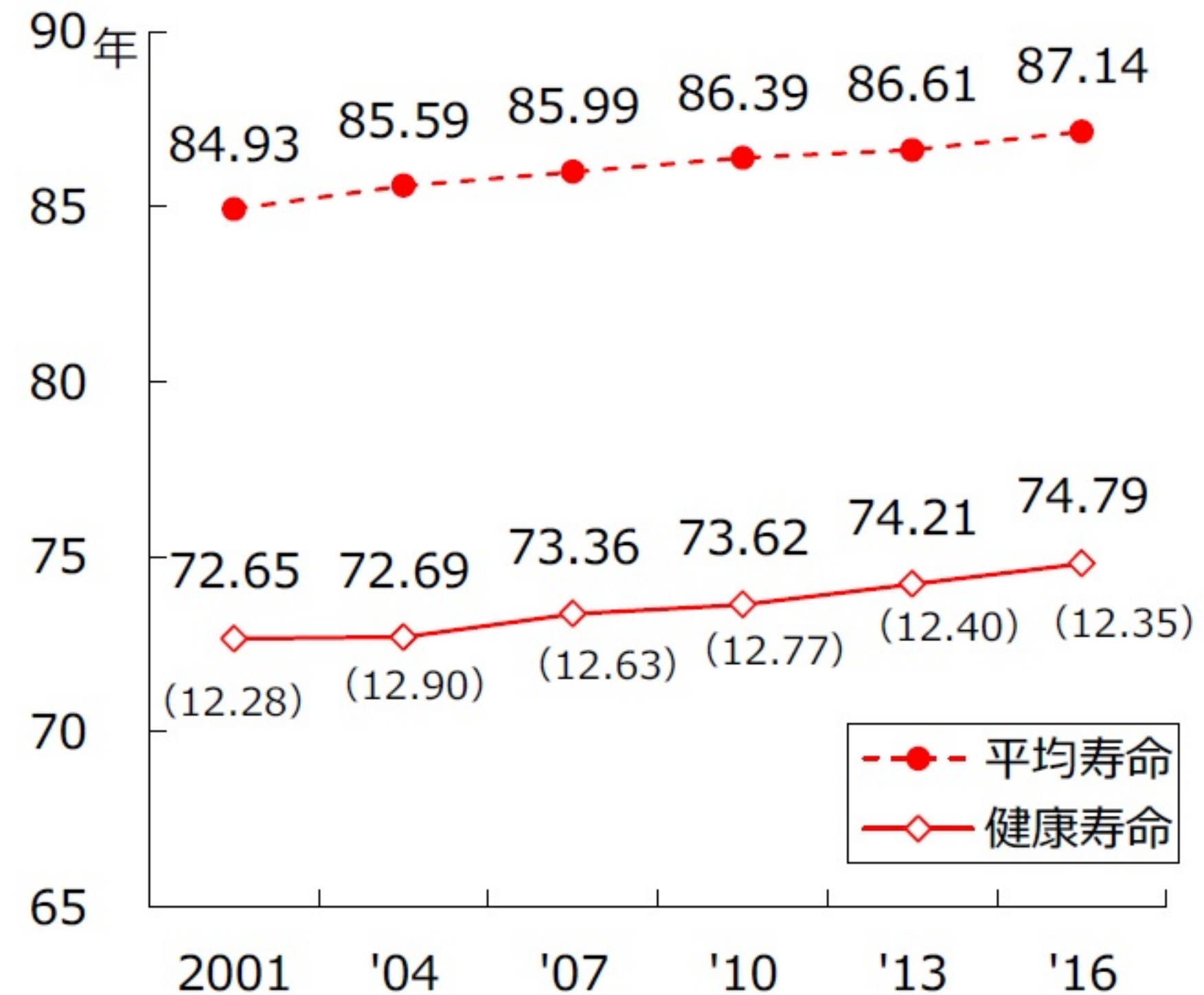
健康寿命: 日常生活に制限のない平均期間

日本人の健康寿命

【男性】



【女性】



健康寿命は寿命と平行し、「不健康期間」は10年程度

その延伸は、健康という用語のニュアンスとは違い「生活」の課題

# ICIDHからICFへ

ICD

1900年 v1

1975年 v9

1990年 v10

2019年 v11

ICIDH 1980年 WHO

障害の階層性

ICF 2001年 WHO

1991年 UN

高齢者のための

国連原則採択

1. 自立 (independence)
2. 参加 (participation)
3. ケア (care)
4. 自己実現 (self-fulfillment)
5. 尊厳 (dignity)

# 国際生活機能分類 ICF の概要

人間の生活機能と障害についての分類法



国際生活機能分類

- 階層性を立体化
- 機能のニュートラルな記載法
- 環境、個人という背景因子
- 網羅的用語

「生活機能モデル」

&  
「分類」

「共通用語集」

# ICFの可能性

「生活機能モデル」

&  
「分類」

医療評価への  
機能要素付加

社会記載  
国際比較

「共通用語集」

# デザイン

すべての目的に適したたった1つの表現などない。

使用場面と切り離された「正しいもの」は存在しない。  
その情報の用途を語らない限り、適切な表現について  
述べるのは不可能である。

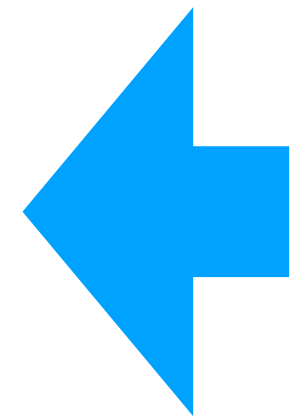
ドナルド・A・ノーマン

# ICFの活用法

「生活機能モデル」

&  
「分類」

ICD  
2019年 v11



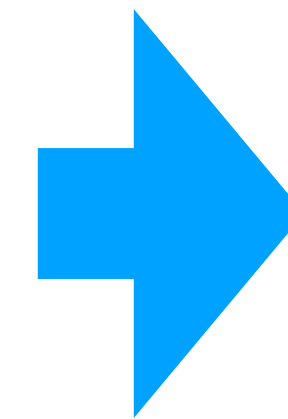
「共通用語集」



# ICFの活用法

「生活機能モデル」

&  
「分類」



評価セット  
評価尺度

「共通用語集」

ICD  
2019年 v11

# ICFの可能性

具体的使用を可能とする**実用的表現と尺度化**を通して、ICFの価値は初めて現実のものとなる